

今後の課題

○転出した生徒のその後の様子を知る

- ・「先輩の話」を聞いて、変わった点
- ・進路実現、高校生活、治療などにどのように活かされたか

○人材バンク

- ・講師の確保（できれば社会人も）
- ・現役の生徒を育てる。

5 転出に向けてのとりくみ

- (1) 転出に際しての不安を聞き取る
- (2) 個別の不安を、個別に明確にする。
- (3) 個別相談で、対策をする。
- (4) ロールプレイをして、対応策を考えあう。
- (5) 先輩の例を紹介する。



アンケートをとる

ストレスアンケートで、転出後への不安を訴える生徒が多数います。

- 勉強がおくれてないか
- 病気の事を、どう話すか、伝えるか？
- 顔が副作用ではれている。
- 髪が抜けている。
- 友達に嫌われないか？
- クラスの空気ができている中にはいっていけるのか？
- 体育ができないが、サボりだと言われないか？
- からだが、つかれてしまわないか？
- 部活は、どうしよう？
- 進路が目前だが、大丈夫だろうか？などなど・・・

転出のとりくみ事例

～中学生は自分が主人公！を合い言葉に～

転入後から、転出を想定して問題を整理していく。(保護者も平行して)

ポイント

理解不足の場合は、病院と連携

○ 自分の病気を理解しているか。

- もとの病気について、経緯と寛解について正しく理解し、説明できるとともに、自分を励ますための作文を書いた。
- 副作用による体力低下、歩行困難状態を改善させるためのリハビリの重要性を認識している。
- 学校生活、日常生活では、適切な「休憩」を入れて、生活自体を自己コントロールしていく。

管理職・特別支援コーディネーターへ

○ 中学校の選択をどうしたいか。

- 小学校時代の友達がたくさんいる「学区外」の中学校を強く希望している。

○ 中学校復学への不安

本人、保護者に詳しく聞き取る。

項目	本人・家族の心配	対処
通学方法	当面父親	父親の仕事復帰後、福祉制度を
学習	数学が不安	夏の基礎学習
友達関係	成長している同級生との関係が不安	今の経験が生かされる
病気の理解と説明	簡単な説明にしたい	言葉を決めて練習
体力、歩行	移動教室、階段授業が全実うけられるか	介助員希望 移動は車椅子 授業枠は徐々に拡大していく
その他	学区外の中学校希望 再発への不安	希望を伝える 今、できることを

○ 自分のできること・目標を考える

- ・夏休み、基礎的な学習をコツコツ勉強する。
- ・リハビリをがんばる。
- ・中学校生活への復帰を楽しみにする！

四者面談等のシステムを生徒に伝える

転出する前にできること・・・あなたの応援団が集まって相談する場合があります！

病院の先生・・・病気のことを教えてください。

家族・・・・・・・・心配なこと、配慮してほしいことを伝えます。

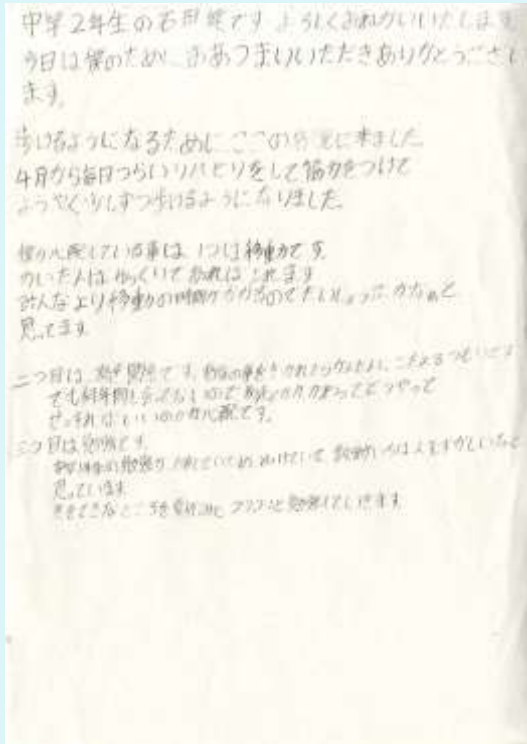
地元の学校の先生方・・・・・・・・いっしょにやっていくために大切なことを聞きます。

岩槻の担任・養護教諭・コーディネーターの先生・・・学校生活で大切なことを伝えます。

会議に出席し、自分のことを、自分で伝える

四者面談(教育委員会を入れた関係者会議)の実施

医療側、学校側からの説明、受け入れ側の質問などスタンダードな関係者会議



友達がいる学区外の中学校へ行きたいです。体力がないので歩行が不安定なので移動のときが心配です

拙いけれど、自分のことを真剣に伝える。



関係者の気持ちを大きく動かす・・・
「こんな子が学校にいたら、ほかの生徒にとっても意味がある。」

本人が出席・作文を読む

調整された内容

- 希望通りの中学校へ
- 本人の現状にあわせた配慮事項
 - ・ 介助員さん(見守り)の配置
 - ・ 昇降口のスロープ
 - ・ トイレの手すり
 - ・ 車いすの準備
- クラスの配慮
(友好関係を持っていた生徒がいる)
- 保健室での休憩

合理的配慮
がなされた
結果内容

*** 4ヵ月後近況報告・・・学校が楽しい！
元気に通学しています！（定期的に報告に
来てくれている）**

復学支援(移行期支援)で重要なこと

①本人の病気理解・意欲と復学への具体的な課題の自覚(中学生段階に必要なこと)

- 病気を正しく理解し、向き合って生きていくこと
- 自己管理しながら病気とつき合っていくこと、服薬管理、生活自己管理など。
- 病気によって、できないことは伝えること、できることは積極的に体験していくこと
- 不安やストレスはあるのは当然であることを自覚し、自分なりの対処法や周りに伝え支援してもらおう
- 周りの人と支え合って生きていくこと
- 自分が、どんなことなら役立つのか考え目標をもつこと
- 復学について、主体的に考え、自分の課題を自覚すること

②関係者による課題の整理と解決へのステップ(転入と同時に転出の課題を模索しはじめる)

(1)環境調整

- ・通学方法(移動経路)・・・家族、自動車、レスパイト利用
- ・学校・家庭環境(教室環境(机・いす・座席配置)、段差・階段・トイレ(バリアフリー、ストマ対応等も)、特別教室への移動と環境滑りやすさ、蛇口等の高さなど)
- ・移動サポート(エレベーター、スロープ、手すり、杖、車いす、介助員の必要性)
- ・休憩場所・相談場所(キーパーソンの確認)

(2)地元校への伝達

- ・学習状況、進路希望・・・支援プラン
- ・病気について・・・医療側および家族から
- ・本人の病気理解と周りへの伝達内容(本人・家族の意向尊重)
- ・学校生活の時間枠確認～体力、疲労度などから枠を徐々に拡大していく
- ・友人関係～クラス編成への配慮　・部活動　・特別に持参(服薬管理、病気に関する)

個別自立活動・・・週1時間

(2) 心理的な安定や病気の状態を改善・克服する意欲の向上に関すること

- ①心理的不適応の改善
- ②諸活動による情緒の安定
- ③病気の状態を克服する意欲の向上
達成感の体得と自信の獲得
(自己効力感の発揮)



体育的活動、創作的活動、プール活動から選択

I 創作的活動

1 目標 = 心理的安定



悩みを打ち明けたり、

自分の気持ちを表現できるようにしたり、

心理的安定をはかることが大切である

『学習指導要領解説特別支援学校自立活動編』

2 学部の創作的活動の目標

心理的安定を図る活動

○ **好きな活動** → **気持ちを安定**
(創作)

○ 教員との関わりを通して

自分の気持ちを表現 → **不安の軽減**

3 アートセラピー研修

(1) 学んだこと

- ① 絵に**メッセージ**がある
- ② **癒やし・気持ちの変化**
- ③ **保護的雰囲気**を醸し出す交流
- ④ ターミナルケア→**支持的で受容的**
- ⑤ **制作に打ち込むタイプ**と
コミュニケーションを重視するタイプ

(2) 実践に生かしたこと

- ① 生徒の傍らに教師がいて、
リラックスした雰囲気を作る。
- ② **創作に熱中**させるときと
話を聞くときを見極める。
- ③ 生徒が安心した中で話せるように
聞くことを大切にする。

4 好きな活動にするための準備

○ ペーパークラフト

○ ゴム印作り

○ 陶芸

○ 手芸（布や編み物・羊毛ニードル）

○ 折り紙細工

○ 粘土細工

5 生徒作品 (陶芸)



6 評価

(1) 自己評価

- 毎時間
 - ・感想の記述
 - ・気分の変化を数字で表す
- 学期の終わりに**まとめの記述**

(2) 教師

- 個人の**実態把握**と**目標設定**
- 活動の様子や生徒の状況を記述

(3) 課題

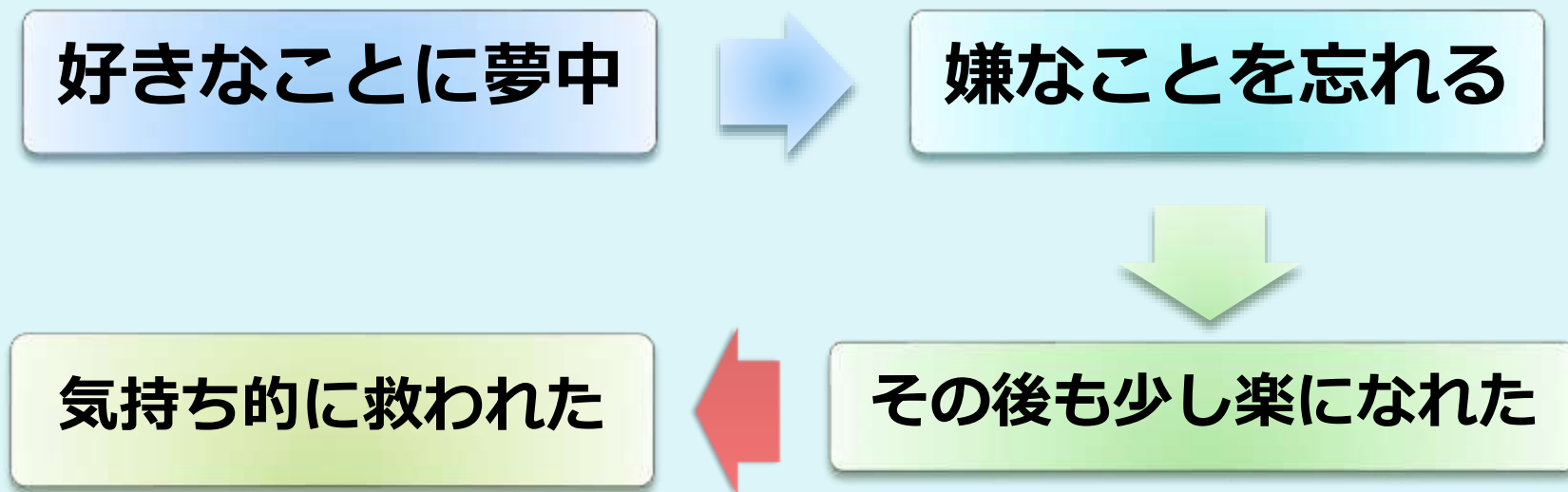
- 目標設定の**具体化**
- 評価の**数値化**→**指導に生かす**

7 生徒の学期のまとめから

○悩みの解決



○病気と向き合いながらの自立



Ⅱ 本校の体育的活動の目標

- さまざまなスポーツ活動を選択
身体活動を通してのリラックス
➔ 気持ちの安定
生活全般の意欲の向上
- 教員との関わり(対戦相手、介助者
など、要求に応じて柔軟なポジション)
自分の感情を表現
身体表現の達成感と満足 ➔ 意欲の向上

3 体育的活動の研修

(1) 学んだこと

教科体育と自立活動(体育的活動)の違い

- ① ねらい
- ② 活動へのアプローチ
- ③ 評価

自立活動での指導に当たる際の留意点

- ① 体育的活動で何がしたいのか
- ② 教師に何を望んでいるのか
- ③ 本時にのぞむ心身の状態はどの程度か
- ④ 本時の活動は充実していたのか